

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を導入しました



愛知県がんセンター中央病院
副院長

長谷川泰久

昨年7月30日に、愛知県がんセンター中央病院に手術ロボット「ダ・ヴィンチ」が導入されました。他施設での導入が進む中まさによろやくの感がありますが、導入されたのは最新の第4世代モデルのXiという機種で、この機種の導入は、公的病院では日本で最初です。

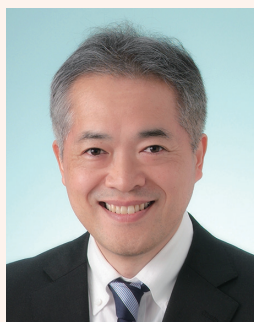
この機種は、さまざまな角度から腹部や胸部の手術部位へ容易にアクセスできるようになっていて、前モデルのSiと比べて格段に操作性と機能が向上しています。当院では以前から、できる限り患者さんの身体への影響を少なくする「低侵襲」の外科治療を行ってきましたが、最新鋭のダ・ヴィンチXiを導入したことにより、人の手ではできなかった手術を行うことができるようになるなど、さらに低侵襲手術の選択の幅が広がることとなります。

院内での十分な準備体制を整え、昨年10月には、当院では最初のダ・ヴィンチによる手術を行いました。当面は、保険請求が認められている前立腺がんを対象にダ・ヴィンチによるロボット手術を行っていきますが、将来的には胃がんや肺がんなど、他の領域の手術にもその範囲を拡げていきたいと考えています。



手術の様子

内視鏡部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 内視鏡部長
田近 正洋

平成27年8月1日より内視鏡部長を拝命いたしました田近正洋です。栄養管理部長も兼任しております。この伝統ある愛知県がんセンターにおいて、責任ある立場になることは名誉なことと共に非常に身の引き締まる思いであります。

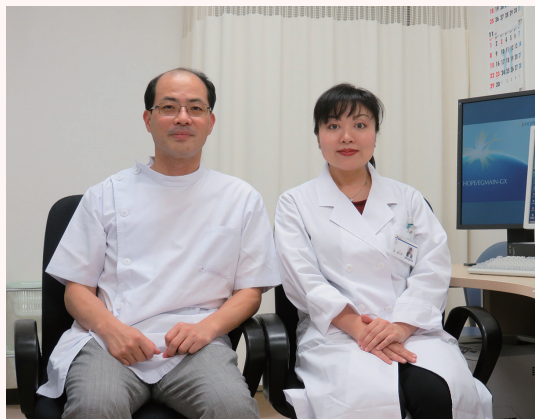
ご存じのように現代は一生涯で二人に一人ががんに罹る時代です。なかでも我々が専門とする胃がん、大腸がんは常にワースト3に入る身近ながんです。しかし、早期に発見すれば根治が可能ながんであり、また、胃がんにおいてはピロリ菌の除菌、大腸がんにおいてはポリープ（腺腫）の摘除を行えば、十分に予防が可能ながんでもあります。我々の使命は、患者さんに安全で苦痛のない質の高い内視鏡検査を提供し、胃がんや大腸がんなどの消化器のがんを的確に診断し、他科と連携し、適切な治療（内視鏡治療、外科手術、化学療法、放射線治療等）を提供することと考えています。

内視鏡診断においては狭帯光観察（NBI）に代表される画像強調観察や拡大観察、治療においては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の登場など内視鏡の分野は大きく変化しています。常に新しい知識や技術を取り入れ、コメディカルの皆さんと協力して質の高い内視鏡診断・内視鏡治療を提供できるように日々邁進したいと思いますので、皆様のご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

～皮膚科常勤医：森真弓実先生着任～

外来部

平成6年5月から約7年間の皮膚科常勤医師の退職後、代務医師による診療が続いていた皮膚科に、森真弓実先生が平成27年10月1日付けで着任されました。外来部は、平成6年新設の皮膚科、脳外科と開院時からの眼科を現在管轄しています。長年の夢がかなって常勤医2人となり、今後脳外科や眼科の医師常勤化を目指しています。森先生は、子育て支援の制限付き勤務ですが、形成外科や整形外科等との協力体制を確立し、着実な診療を行いたいと考えています。



左から、堀尾芳嗣部長 森真弓実皮膚科医長

大腸がんの転移を制御する遺伝子を探せ！

研究所 ～分子病態学部～



分子病態学部長
青木 正博

分子病態学部では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を探しています。用いている手法の1つでは、転移する能力が低い大腸がん細胞株に、個々の遺伝子の機能を抑制するshRNAと呼ばれる分子を1個の細胞に1種類ずつ導入し（合計数万種類で、ライブラリーと言います）、それらをマウスの直腸に移植します。その後、マウスの肺や肝臓に転移した大腸がん細胞を回収し、どのような遺伝子の機能が抑制されて転移するに至ったかを確認するという方法です（図1）。これまでに数十個の候補となる遺伝子を見つけ、現在それらの働きを解析しています。

もう1つの手法では、トランスポゾンという、細胞内でゲノムの中を動き回ることができる特殊な遺伝子を用いています。大腸がんを自然に発症する遺伝子改変マウスにこのトランスポゾンを組み込むと、それがゲノム中を動き回って様々な遺伝子の働きを変化させます。その結果として転移したがんを回収し、どのような遺伝子を変化させたことで転移したかを調べるという手法です。

このような手法で見つけた遺伝子について、実際にヒトの大腸がんの転移に関わっているかどうかを中央病院との共同研究で検証するとともに、それらの遺伝子がコードするタンパクの働きを解析し、転移の新しい予防・治療法の開発につなげたいと考えています。

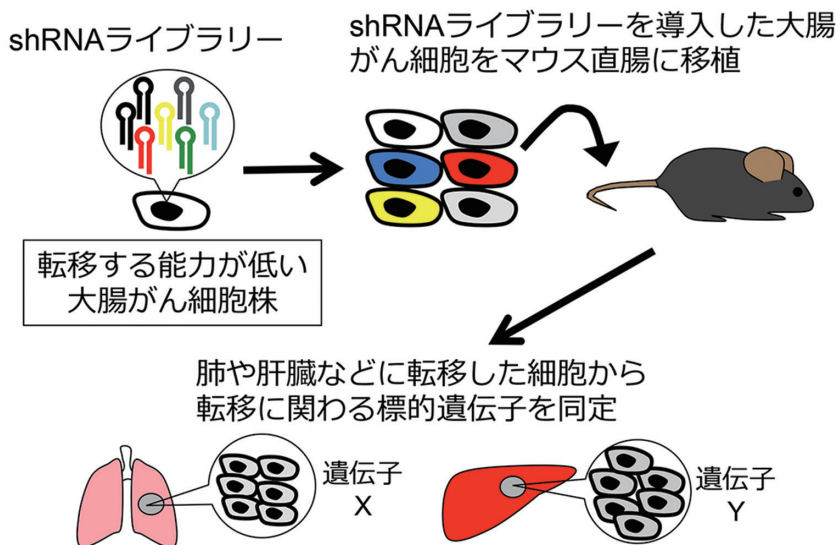


図1 shRNAライブラリーを用いた大腸がん転移制御遺伝子の探索

医療連携室から土曜日稼働のお知らせです

円滑な医療連携を図り、より速やかに初診予約手続きを行うため、平成27年10月17日から土曜日（祝日を除く）も午前9時から午後1時まで、医療連携室を稼働することに致しました。平日は今まで通り午前9時から午後7時までです。

地域医療連携・相談支援センターでは患者さんが迅速・確実に受診でき、初診時から十分な相談・支援を受けていただけるよう、また地域の先生にも満足していただけるよう、種々の課題に取り組む所存です。ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。



“患者満足度調査”から見えること ～今後の改善に向けて2015～

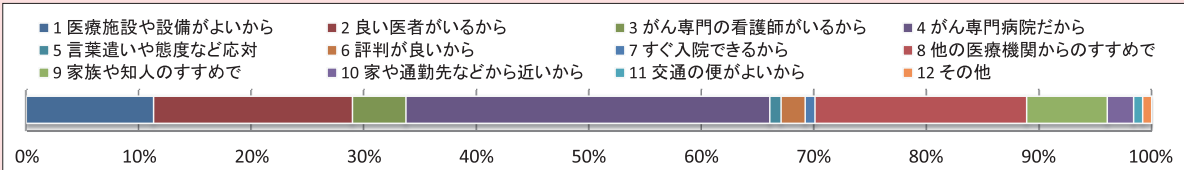
愛知県がんセンター中央病院では、患者さんにより快適なサービスを提供するため、外来患者さんや入院患者さんのご協力をいただき、平成27年10月7日から8日にかけて「患者満足度調査」を実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

入院部門

総合評価 平均 86.7点 (100点満点中)

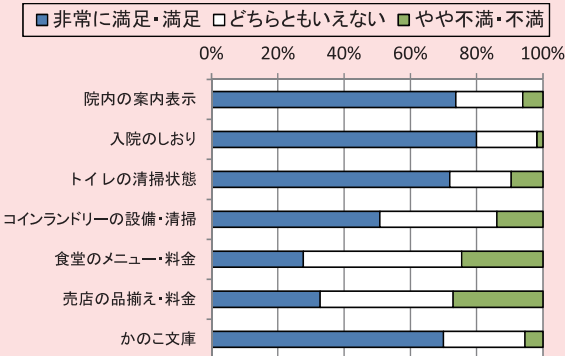
配布枚数 284名
有効回答数 220名 (77.5%)

(1) 当院の選択理由は

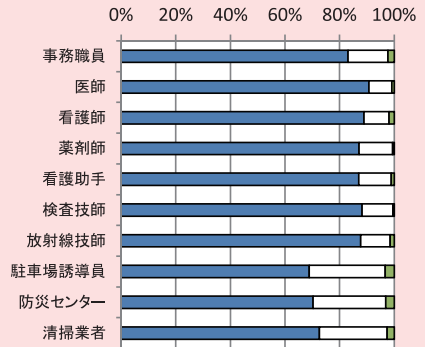


(2) 院内環境

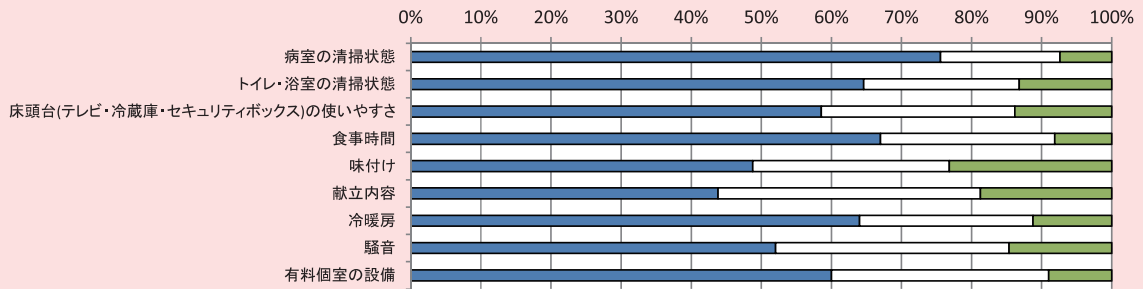
1. 施設



2. スタッフの対応

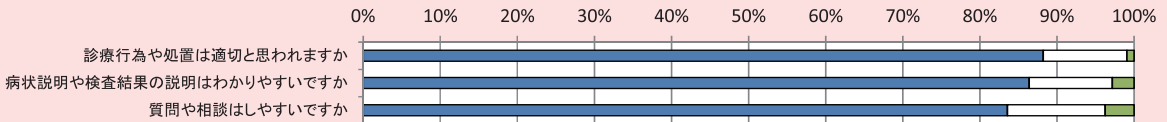


3. 病室環境

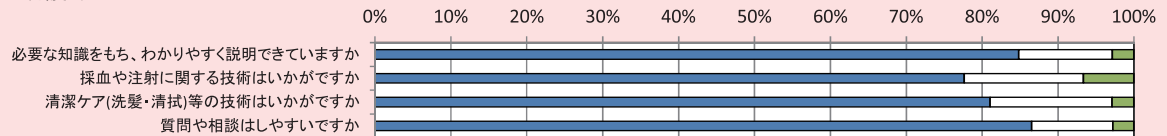


(3) 診療サービス

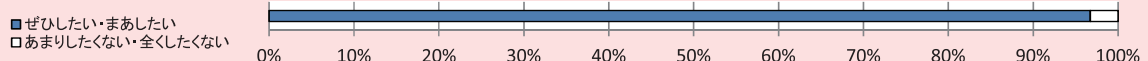
1. 医師



2. 看護師



● 知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか。

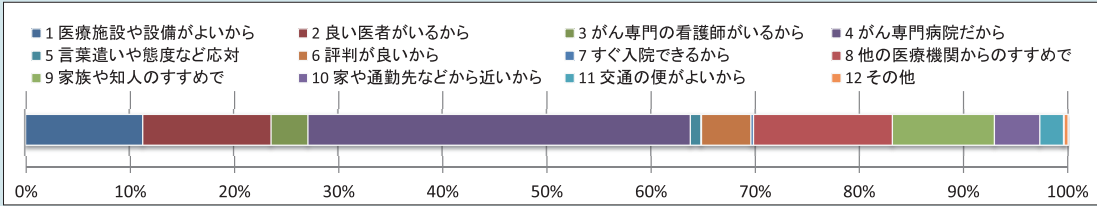


外来部門

総合評価 平均 83.3点 (100点満点中)

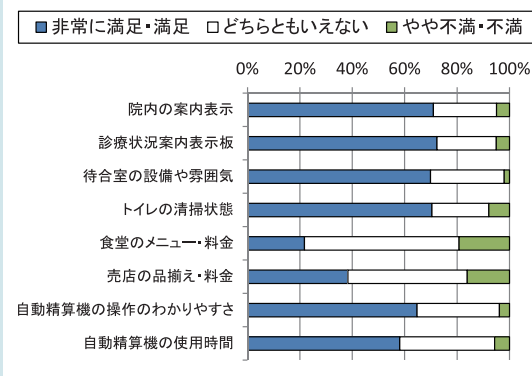
配布枚数 300名
有効回答数 230名 (76.6%)

(1) 当院の選択理由は

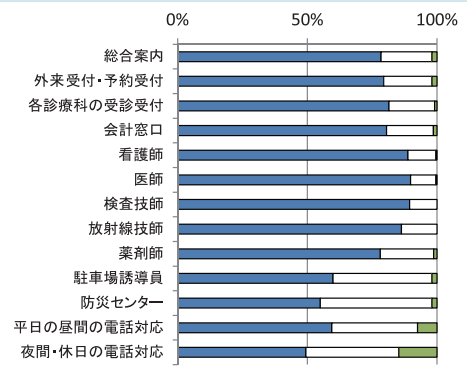


(2) 院内環境

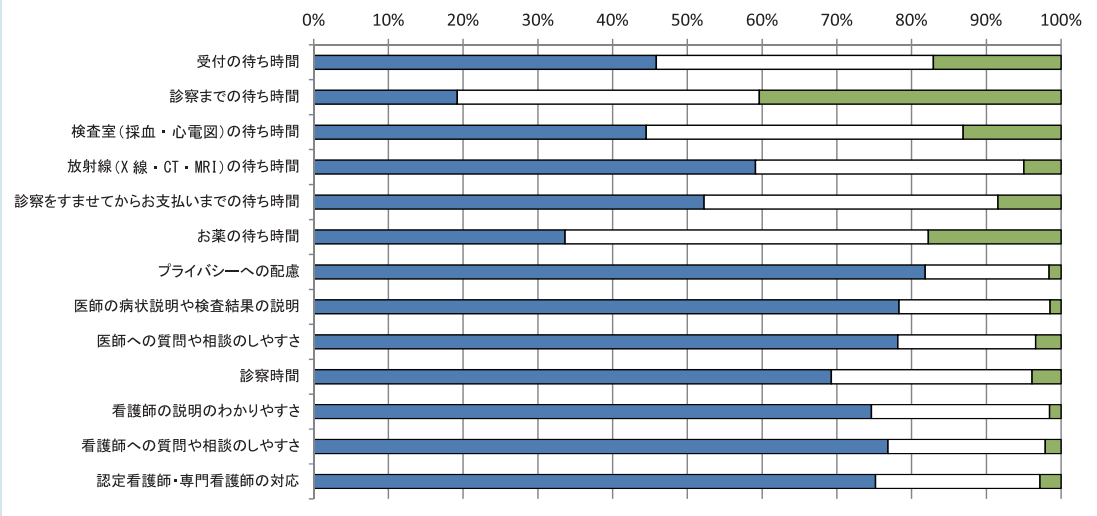
1. 施設



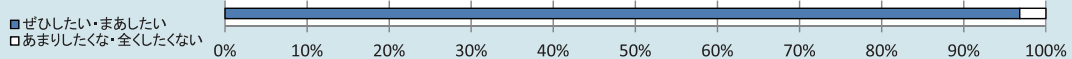
2. スタッフの対応



3. 診療サービス



● 知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか。



患者満足度調査にご協力いただきありがとうございました。接遇面につきましては、入院・外来ともに概ね高評価をいただきましたが、外来の回答の電話対応が昨年より低下しておりました。自由記載欄へも多くのご意見をいただきました。総合評価点数は、入院・外来ともに昨年より低下しており、今後もより一層の改善に取り組んでまいります。

改善すべき点として多くの声があげられたのは、入院・外来ともに食堂、売店についてと、入院中の患者さんからは食事、トイレ、風呂、外来患者さんからは待ち時間、接遇面、駐車場の不足でした。食事については、今後も継続して新メニューの導入や、食堂、売店につきましても業者との情報交換を行いながら改善できるよう努めていきます。

今後も患者さんにがんセンターを選んでよかったと実感していただける診療サービスの提供に、職員一同取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(患者サービス委員会委員長 亀島里美)

根治性と機能温存に対するバランスのとれた治療

中央病院 ～頭頸部外科部～



頭頸部外科部 医長

鈴木 秀典

頭頸部がん治療は、呼吸や音声言語機能また経口的に食べるという嚥下機能等に重要な臓器である鼻や舌、声帯といった領域を治療対象としています。日常生活を維持する上で食事の経口摂取困難や音声喪失などは、患者さんにとって生命予後と同様に重要な問題です。

そこで、頭頸部外科部では、根治性を維持しつつより良い機能温存を目指すバランスのとれた治療に努めています。リンパ節転移を有する進行がん等は、抗がん剤を先行し効果のある場合に抗がん剤と放射線の同時併用療法で根治性と機能温存のバランスのとれた治療を行っています。さらに、早期咽喉頭癌に対して従来の頸部外切開や放射線治療に比べて、低侵襲で術後回復も早く、発声や嚥下機能の温存を目指した経口的咽喉頭切除術も積極的にを行っています（図1）。

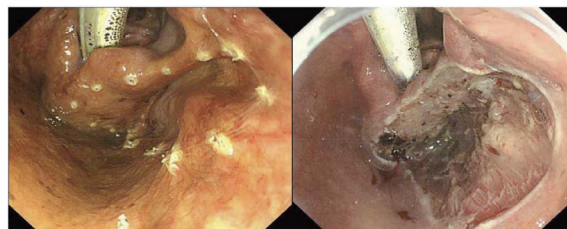


図1 経口的咽喉がん切除術

バランスのとれた治療を施行する際に大事なものは、治療前の診断で、CTや内視鏡さらにFDG-PET/CTにより精密な診断を目指しています。また治療前にFDG-PET/CTの画像解析により予後予測に関する臨床研究をすすめています（図2）。



頭頸部外科部 スタッフ

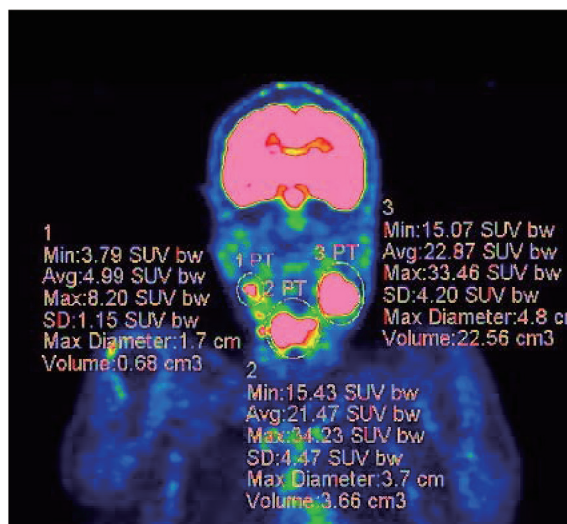


図2 精密な癌の診断を目指してFDG-PET/CT

診療医の紹介

中央病院 呼吸器外科部

呼吸器外科は4名のスタッフで診療しております。主に肺がんや縦隔腫瘍（胸の中のできもの一般）が対象です。進行がんに対しては内科・放射線治療科と協力し集学的治療を、早期がんに対しては積極的に低侵襲手術（胸腔鏡手術や区域切除など）を行っています。特に胸腔鏡手術は当院の肺がんの標準的手術となってきました。また今後は、ダ・ヴィンチを用いたロボット手術にも取り組んでいきたいと考えております。

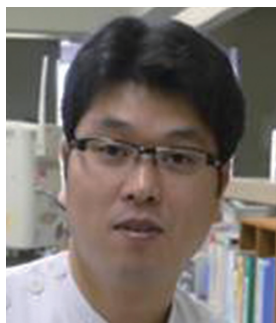
皆で力を合わせて、今後とも患者さんに安心・安全な医療を提供してまいりたいと存じます。どうぞ、宜しくお願い致します。



後列左から：飯塚修平レジデント、直海晃レジデント、出嶋仁シニアレジデント、瀬戸克年レジデント
前列左から：水野鉄也医長、坂尾幸則部長、黒田浩章医長、坂倉範昭医長

がん薬物療法が大きく変わろうとしています

中央病院 ～薬物療法部～



薬物療法部 医長
門脇 重憲

次世代シーケンサーなどの遺伝子解析技術の進歩に伴い、がん発症メカニズムについての理解が急速に進んでいます。多くのがんで遺伝情報に基づいた薬剤開発が進んでおり、がん薬物治療が大きく変わろうとしています。

BRAF遺伝子変異やマイクロサテライト不安定性を有する大腸がんの場合、実際に有望な薬の治験を行っていますが、それぞれ5-10%、5%未満と極めて低頻度です。従って、個々のがん遺伝情報を治療に生かすために、スクリーニングが極めて重要になります。その取り組みとして、国立がん研究センターを中心とした産学連携全国がんゲノムスクリーニング計画（SCRUM-Japan）が進行中です（図1）。当院も参加し、治療標的となる希な遺伝子異常を発見し有効な薬を患者さんに届けることを目的として、肺がんや消化器がんではスクリーニングの体制整備をしています（図1）。また、未承認薬医師主導治験ネットワークのコア施設として先進的かつ有効な薬剤の開発にも力を入れております（図2）。

近年注目されている免疫治療の中でも、がんの免疫回避に関わる免疫チェックポイント分子を標的とした抗体薬が皮膚メラノーマや肺がんでは従来の抗がん剤を凌駕することが証明され、さらに消化器がん、頭頸部がん、泌尿器がんなどでも有望な結果が報告されています。当院も多くの治験に参画し、治療開発に力を入れております。

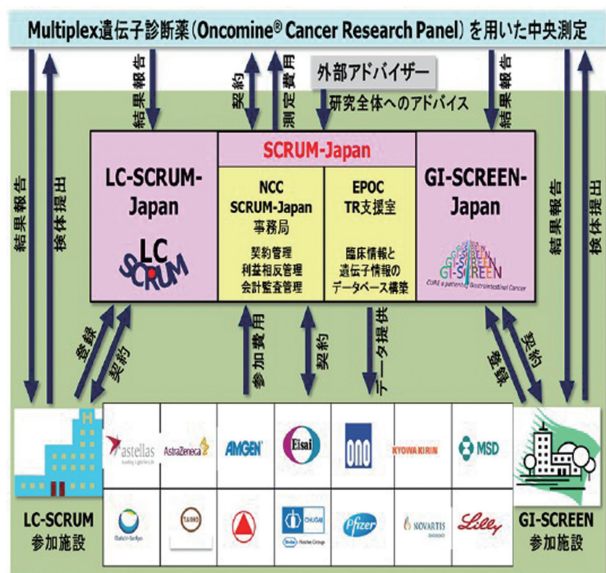


図1. 産学連携全国がんゲノムスクリーニングプロジェクト (SCRUM-Japan)



図2. 国立がん研究センター「先端医療開発センターが主導する未承認薬医師主導治験ネットワーク

落語で笑顔に

～桂文生師匠が皆様に笑いをお届けしました～

平成27年10月1日（木）に国際医学交流センターメインホールで、患者サービス委員会主催「落語で笑顔に」を開催しました。約1時間にわたっていくつかの小話をしていただき、巧みな話術で会場内にたくさんの笑いが生まれました。参加していただいた方からは、「聞きにきて良かった」などの感想を多数いただきました。今後も患者さんやご家族の方に満足していただけるよう、様々なイベントを企画していきたいと思っております。



今後の予定 一ふれあいコンサート

日 時：平成28年3月2日（水）午後2時から1時間程度
場 所：国際医学交流センター ロビー
対 象：患者さんまたはそのご家族

サロンの主役は、がん体験者と家族と友人です —がんサロンの紹介—

サロンとは、がん体験者とご家族、ご友人が悩みや体験を語りあい、共感の中からお互いの生きる力を引き出していく交流の場です。交流のきっかけづくりにサロンでは、がん体験者や職員によるがん治療と栄養や痛みに関するお話やクリスマスなど季節のイベントを開催しています。開催日時は第1・3木曜日の13時30分から15時30分です。開催場所は外来棟2階の相談支援センターです。皆様のお越しをお待ちしております。



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索